町議選に臨む人々

立起の弁をきく

香川博彦氏

○…この三月の最終議会では決算特別委員長として本会議で報告に立つたが、若手議員としてははじめてのことで、日ごろの勉強ぶりが買われたもの。

○…昭和十年生れの足寄つ子で、本別高校を卒業して足寄市街近くの共励で農業をうけつぎ、連合青年団長から農村青年会議議長となつて革新派青年層の支持で昭和三十八年から連続二期の町議で文教、厚生を担当。

○…現在、農民同盟副委員長　社会福祉協議会理事、国保病院運営委員で、そして社会党支部の書記長。

○…神本三也支部長とともに労農提携の中核的な存在で、このコンビは息の長い町の革新陣営のリーダーとして活躍するものと期待され、このたびの三選にあたつては自治労その他の組織票ばかりでなく、地元共励足寄、平和地区の推薦をうけての立起。

阿部俊夫氏

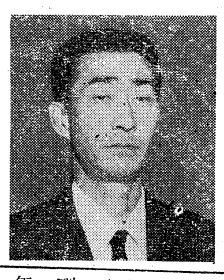
○…大正十二年に夕張市の生れ、小学校五年生のときにスケートの練習中、おりから進行してきた列車に突つこんで右腕を失つた人。

○…そのために町議会では常にこどものためにスキー場、スケートリンク、グラウンドの整備を強調しているのは自らの悲しい体験によるもの。

○…不自由なからだで小さいときから商店や木材店で苦労をつづけて足寄へやつてきたのは西木材の関係で昭和二十九年、ラワンで独立して造林業。

○…司法保護司をやり、交通安全指導員、ラワン防犯組合長、町の防犯協会副会長、そして身障者足寄分会の副分会長で四日の総会では緊急動議で二百名の会員から町議選の推薦をうけ、地域票もまとめて二選体制

浅川昭二氏



○…町長選がないうえにあまり変り映えのしない町議選への顔ぶれのなかにあつて、共産党が議席の倍増をめざして強気のかまえが注目の的。

○…足寄駅前の老舗、改浅川亀兵氏の四男として昭和二年れ、十九年に十勝農業学校を卒業していまの西小学校の助教諭と青年学校の指導員、二十二年に共産党へ入党、開拓地へ入植。

○…このあと国鉄労組の職場放棄事件や白鳥事件などに関連したとの疑いで二回逮捕、投獄の受難をへながら、町の農地委員、農業委員に当選、町議の補欠選挙では八百四十七票を獲得して次点、開拓農協の組合長専務理事をふくめ現在まで連続二十年間の理事。

○…『浅川は問題にならないという向もあるそうだが私としてはもうひと押しのところへきている』と必勝を期しての弁。

大野耕太郎氏

○…立候補者のなかで最年少の三十才、下愛冠の大野剛氏の長男で、昭和三十四年に帯広農業高校の畜産科を卒業して八雲町の牧場で実習したあと「大野ファーム」として近代的な酪農経営にとりくんでいる人。

○…足寄町連合青年団長から十勝連合青年団長として活躍、昭和四十二年に町議選に打つて出て初当選、先輩の神本三也、香川博彦氏らが社会党へおもむいたのとは対照的に中川一郎後援会の副幹事長として進歩的な保守派の道をあゆみ、四十四年には開道百年を記念してのジエット機による中堅青年の海外派遣に選ばれてアメリカ各州で一カ月にわたつての民泊修業。

○…『議員の一期は先輩議員のなかで大いに勉強させていただいたので、幸いに再度の議席が得られれば、四年間の経験にもとずいて遠慮しないでガンバツてやりたい』とのファイト。

斉藤祐一氏

○…この二月に全国中央畜産会がえりすぐつたその道の日本代表十一名のなかに選考されて、ニュージーランドに十日間、オーストラリヤに四日間の海外視察から帰つたばかりでの出馬。

○…目的は草地開発と畜産物の消流体制の現状把握だつたが、山のテツペツから三十度の傾斜面までも草地化しているテイ耕法（飛行機で種子をまき、動物のツメ（にかける）は、足寄のように広大な地帯に希望がもてるとのこと。

○…大正九年に本別れ、昭和九年に足寄へうつり、戦後の二十三年に農民同盟委員長、三十三年に農協常務三十六年に合併農協の専務三十八年いらい組合長を歴任しており、農民代表の立場としてこれを町行政に反映させなければと前回から町議会に進出、さらに二選を期して立起。

青木収氏

○…これまでは地元から町議を出すための推進役としてつとめていたが、前回から主客転倒して推される側に立たされ一期四年間を無事につとめあげて、東中学校からラワン小学校の統合校舎が完成したものの、周辺各校との統合がこれからの問題点で、このたびは全部落からふたたび推されての立起。

○…先代は明治二十八年にこのラワン地帯に入つた草わけの老舗で、本人は大正九年に生れ、昭和十三年に空知農業の農科を卒業して家業についたが翌年は召集をうけて中支で従軍のうえ二十一年に復員となつたがおりからの物資統制で食料も衣料も酒もたばこも配給時代で、かつての老舗も単調な配給所ーその後どうにか経済復興から高度成長へとすすんだところでこんどはサクバクたる過疎化の波

○…この間、足寄川小水力電力利用組合長、東中学校PTA会長、消防第五副分団長などの役職で地域のために活躍ー白糠線鉄道の分岐点としてラワン地帯のこれからが重要な時期にさしかかつており『過疎対策にひとフンバリしたい』と再出馬の熱意。

遠山謙氏

○…大正七年に福島県は会津阪下市の医師の家に生れ専修大学から学徒出陣で高田独立山砲隊へ、士官学校から中野学校をへて北方軍に配属されて千島のエトロフで陸軍中尉で終戦。（そこで藤村与作村長や湯浅義雄氏にあつたという）

○…いつたん郷里に帰つたが医院は弟に任せて心機一転、稚内の師団司令部へとつて返し、五十七名の部下を引きつれていまの白糸、静原、泉に分散入地、裸一貫で初の営農にとりくみ。

○…昭和三十七年から開拓農協組合長を連続五期の最長記録、全道開拓者連盟の常任委員、全国連盟の監事全道酪農対策本部の専門委員としても忙しいからだ。

○…町議会の方は昭和三十八年から二期目で、発言力は旺盛。

宮川孫市氏

○…昭和二十二年から連続五期当選（最高点もあり、建設委員長にも推された）という強剛だつたのに前回はいささか油断をしてか次点だつただけに、六選をめざす今回は慎重なかまえ。

○…明治三十五年は岐阜県の生れで、足寄での営農は家族任せで、足寄営林署管内ではもつとも古い造材業者で、製材協会の理事もやり、いまの小林町長といつしよに道東建設を創立。

○…東小学校PT会長、土地改良区理事長から足寄通運社長と市のひろい活躍ぶりもさることながら、長い本名会の会長として、参議院選後の七月の内閣改造で大臣の呼び声の本名武代議士との結びつきに期待。

○…『藤見橋のときも病院の起債のときもそうだつたが、最後は本名さんが直接に大蔵大臣に話しをつけてくれて実現した、ここ一番というときは政治力で、こういう面でもお役に立ちたい』との体験談。

矢野寛一氏

○…日本共産党足寄支部長で町議会の建設委員長というのは全道でも珍しい存在で、いかにも革新勢力の強い町がらをと思わせるが、前回の町長選で小林氏を推した革新派のなかで三期目の当選歴でポストについたもので、柔軟性のある共産党員。

○…町の元老故矢野亀次郎氏の四男として大正十年に足寄市街で生れ、昭和十三年に小樽商業を卒業してただちに遠く満洲中央銀行に就職、十九年に一時帰国したが二十年五月に関東軍に召集、敗戦とともにシベリヤに抑留、この間に読んだソ連共産党史に感銘をうけて二十三に帰国するや代々木の共産党本部で入党。

○…帰町後は宮口政雄氏とともに町内に入党宣言を発表、農業を営みながら足寄細胞長として党活動を展開二十四年には政令違反で三カ月の投獄。

○…このたびの四選出馬にあたつては、町民のくらしと健康を守り、農林業、中小商工業の発展をはかり、父母の要求にもとずく民主教育、文化、スポーツの民主的発展、民主連合町政などを強調。

吉田吉之助氏

○…大正十一年に本別の生れ、幼少のころに芽登地区の開北にうつり、芽登高小を出てから二代目の酪農家として大型経営にとりくむかたわら、この地帯では珍しい生活協同組合の創立に参加して現在も理事長。

○…町議会の方は昭和三十年から四期目で産業経済委員長としての重職のうえに農業共済組合長から酪農振興委員会長、西中PT会長と忙しいからだ。

○…昭和三十七年に再建された当時の社会党の支部長で、革新派議員として議員歴はもつとも長いが、あまり革新ぶらずに穏健で現実的な議会活動。

湯浅義雄氏

○…昭和二十六年いらい連続四回当選の古参議員で、監査委員から産業委員長として活躍、議席にあつては常に長講熱弁の論客、特別委員会が設置されると必ずといつていいほど委員長。

○…前回は惜しくも議席は失つたが、農業委員会長として、白糠線鉄道の用地交渉委員長としてほとんど毎日のように役場通い。

○…旭川農業高校を卒業して農会の技手から農業会の常務理事、農協の参事として足寄の農業団体の中すうにあつてこの道ひと筋でつとめてきただけに農政のベテラン。

○…このたびは是が非でも返り咲きをと、同志の協力を求めて一生県命。

町議候補者合同個人演説会

十八日に告示の足寄町議選にさいして、立候補者の個人演説会を合同しておこなう、事実上の立会演説会をつぎの日程で実施することにしています。

▲二十日
午後一時から稲牛
午後三時から上足寄
午後六時半からラワン

▲二十一日
午後二時から喜登牛
午後四時から茂喜登牛
午後六時半から芽登

▲二十二日
午後二時から愛冠
午後四時から上利別
午後六時半から大着地

▲二十三日
午後二時から中足寄
午後六時から公民館

家具 建材 アルミサツシ
既製家具から注文建具
住宅産業に奉仕する
有限会社 桜井家具建具店
足寄町北5区　T 2362
家具建具製作部工場　西5区